

小論文のポイント2

「小論文で何を評価されるか」

こんにちは。ろう・難聴中高生の学習塾の講師の守屋です。

今日は「小論文で何を評価されるか」について説明していきます。

一体、小論文とは何なのでしょうか。辞書で調べてみるとこう書かれています。

「小論文＝試験科目として課す、短い論文。」

なるほど。では、次に論文とは何なのでしょうか。作文と何か違いがあるのでしょうか。こちらも辞書で調べてみましょう。

「論文＝①ある事物について理論的な筋道を立てて説かれた文章。

②学術的な研究成果を理論的に述べた文章。」

このように書かれています。では大学は受験生の書いた小論文を一体どのように評価するのでしょうか。もちろん大学によって評価基準は異なりますが、共通していることもあります。今回は、小論文という試験科目で評価されることは何なのかについて説明していきます。

先ほど辞書で意味を確認しましたが、小論文は「ある事物について理論的な筋道を立てて説かれた文章。」である必要があります。この部分が非常に大切で、「理論的な筋道」のない文章は小論文において評価されないとえます。ここが最も重要な評価されるポイントです。

例を挙げて考えてみましょう。例えば「あなたは死刑制度に賛成か、反対か。どちらかの立場で意見を書きなさい。」という問題が出たとします。動画を視聴している皆さんも動画を一時停止して書いてみると練習になります。

では、2つの解答例を示します。①と②どちらが小論文として評価されるでしょうか。

- ① 私は死刑制度に賛成だ。なぜなら、死刑制度は法律によって定められており、また、死刑制度の存在により犯罪を抑止できると考えるからだ。
- ② 私は死刑制度に反対だ。なぜなら、どんな人でも、その人が死んでしまったら、私は悲しく思うからだ。

どちらも自分の立場を示した上で、その理由を説明できていますね。しかし、片方の理由は小論文としては評価されません。評価されない解答例は②です。これは理由が主観的な表現になってしまっていることが評価されない原因です。主観とは自分だけの見方のこ

とです。小論文では、主觀ではなく、客觀的に書くことが大切です。客觀的とは、誰から見ても確かに見える見方のことです。このことを意識して小論文で理由を書くことで、評価される小論文になります。

今回の動画では、小論文で評価されることの中で最も大切なポイントについて説明しました。次の動画からはさらに具体的な書き方について説明していきます。

この塾では、受験に対する相談も受け付けています。もし大学受験のことで困っていること、悩んでいることがあつたら、連絡してください。連絡は塾のホームページの「お問い合わせ」からできます。

では、これでこの動画は終わります。ご視聴ありがとうございました。バイバイ。

文 新田倫平